

題材名「P2P電話（Skype）を用いた双方向通信の授業実践」

目標

・ P2P 電話（映像送受信）を利用して「情報 A」の実習で作成した Web ページを情報モラルの専門家に見ていただき様々な注意点や評価・助言をもらうことにより、Web ページを作成する際におけるモラルをより深く理解する。

コンピュータを活用する利点

・ 昨今の情報技術の発達に伴い、P2P 電話（Skype）を利用して本校の先生方に情報機器を利用して「こういう授業もできる」という授業のあり方を提示する。
・ また、生徒にはこのような遠隔授業を通じて、情報モラルの専門家に評価・助言をもらうことにより、Web ページを作成する際のモラルなど、授業で学んだものをより発展させ深く理解できる。

授業の流れ

（姫路獨協）大学と映像・音声の配信をする。

生徒が自分の作成した Web ページを電子ボードに映し出し、作成した作品の主旨や、自分で調べた情報モラルについて説明・発表する。

専門家に発表内容と作品について評価・助言をしていただく。

上記のことを4回か繰り返す。（今回は5人が発表した。）

専門家に Web ページを発信・作成するときの注意点など、総括をしていただく。

ICT 活用場面

電子ボードを利用することで、ボードに触れるだけでファイルが開き、席に着くことなく、発表ができるのでプレゼンテーションがしやすい。（ただし、接続回線やコンピュータの位置により発表する場所は変える必要がある。）現在の P2P 技術では設定が容易であり、ビデオカメラを通じて映像も送受信できるので初めてこのような授業を実践する先生方にも使いやすい。



成果と課題

ほとんどの生徒は、このような授業形式が初めてであったため、とても主体的に取り組んでくれた。授業後の感想をみても、ほとんどの生徒が、最先端の情報機器を利用した授業について良い評価をもらい、専門家による情報モラルの説明も好評であった。ただし、音声のとぎれがいくつかあったので、ネットワークの回線次第で良い教育効果を生むと思われる。

しかし、「とても時間がかかるし、声のとぎれたり、進みが悪いのであまり良くないと思いました。」という感想もあり、その点では授業の方法をもっと改善していかなければならないと感じた。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	コンピュータ1台・プロジェクター・電子ボード・音声拡張装置・デジタルビデオカメラ
使用ソフト名	Skype
使用教室	普通教室